

# CLOSE UP

クローズアップ

高校時代教会でのボランティア活動をきっかけに、幼児教育の道へと進まれた馬渕先生。縦割り保育形態や自由活動を大切にする保育など、金城学院幼稚園ならではの保育システムの中で育まれる園児たちの成長を見守りながら、「神様から与えられた一人ひとりの個性を大切に伸ばしていきたい」と願い、園長として多忙な日々を送っていらっしゃいます。



金城学院幼稚園

## 馬渕 宣子 園長

金城学院大学短期大学部保育科卒業。同年から金城学院幼稚園の教諭となり、2009年から園長を務める。日本キリスト教団瀬戸永泉教会会員。

### 人間同士のふれあいを通して 園児とともに学ぶ毎日

学生時代の私の夢は、小学校の先生になることでした。しかし高校生の時、教会学校で幼い子どもたちに出合ったことが、この道に進むきっかけとなりました。子どもたちが「神様ってどこにいるの?」「神様に会うにはどうしたらいいの?」と、純粋な心で問いかけてくるのに対し、大人の言葉を何でも素直に吸収する子どもたちに私もいいかげんな答えをしてはいけないと思い、真剣にその問いかけに応えました。その中で真剣に向き合うことの大切さを子どもたちから教えてもらい、また幼児教育の尊さに気づかされたのです。

今でも子どもたちから教えられることはたくさんあります。例えばお昼ごはんの後にお散歩を控えている時など、食べるのが遅い園児について「早く食べようね」と急がせてしまうことがあります。すると、まわりの園児たちが「大丈夫、一緒に手伝ってあげるからね」と声をかけ、その子を励まします。また、いけないことをした園児を注意した後でも、他の園児が泣いている子の側によってきて「わかれば先生もきっと許してくれるよ」とフォローをします。こうした心優しい園児たちの姿を見ていると、「大人が一方向的な気持ちを押つけてはいけない」とあらためて気づかされます。子どもと大人ではなく、個々の人間同士としてのふれあいを通して、子どもたちはさまざまなことを吸収し、私たち大人もまたさまざまなことを子どもたちから学んでいくのだと思います。



## 独自の保育形態が育てる 思いやりの心と創造力

金城学院幼稚園での保育の大きな特徴のひとつに「縦割り保育形態」があります。これはキリスト教主義を基本に「一人ひとりを大切にする保育」を実践する中で設けられたもので、3・4・5歳児を混合しクラスを構成する特色ある保育制度です。少子化の現代では家庭でも一人っ子、あるいは二人兄弟姉妹という構成が多く、お兄さんやお姉さん、あるいは弟や妹という、いろいろな立場になることが少なくなってきています。幼稚園では3学年が一緒に生活しますから、年下の子は年上の子を見て学ぶ、あるいは年上の子は年下の子の面倒を見るというような機会が生まれ、互いに兄弟のような感覚で接することができます。また幼児期は個体差が大きく、年長でも同じ年の子ではなく年下の子と遊ぶことで気持ちが安定する、あるいはその反対のこともよく見られます。こうした経験を経て園児たちはお互いに思いやる気持ちが芽生え、また年長になった時に自然に年中・年少の面倒がみれるような優しい心を持った子へと成長していくのです。このような園児たちの成長過程をそばで見守れることを大変嬉しく思います。

また、子どもたちが主体である自発的あそび「自由活動」は、園児たちの成長にとって大切な活動と言えます。遊びたくなるような環境設定を保育

者が行い、園児たちがそれぞれ遊びたいことを見つけて遊び、お互いに刺激を与え合い遊びを深めて行きます。その中で子どもたちは自ら遊びを創造する力を養い、またルールを覚えて時には自分を制するという力を身につけていくのです。廃材を利用してカメラやパソコンを作ったり、また手作りの遊具でのびのびと自由に遊ぶ園児たちの豊かな創造力には、毎日のこととはいえ本当に驚かされ、感動を覚えます。この自由活動を基として、クラスの集まり、同年齢での集まり、更に行事へとつながっていくのです。

園長になって1年、まだまだ先の見えないことも多く、学院の方々や先生方、ご父母、それに園児たちに助けられながら毎日を一生懸命頑張っております。園児たちには「どの子も神様から、その子にしかできないことを与えられている」ということを忘れず、健やかに育ててほしいと願っています。また大人になっていろいろな壁にぶつかった時も、常に神様はありのままを受け入れ愛してくださっていることを忘れず、希望を持って生きていてほしいといつも祈っています。

## 馬淵先生はどんな人!?

金城学院幼稚園に園児を通わせるご父母の方々に、馬淵先生はどんな人かをたずねました。一番多く聞かれたのは「とにかく優しい先生です」という言葉です。「子どもにも私たちにも優しく、周りにいる人みんなを温かい気持ちにさせてくれます」「雨の日は必ずタオルを持って、登園してきた子どもたちを一人ひとり拭いてくれます」などの他、「子どものことでの相談にも優しく対応して下さる」といった声も聞かれました。また「子どもと一緒に遊んだり、私たちに聖書の素敵な話をしてくださったり、どんなときでも頼りになるという印象です」とも、いつも優しくおだやかでありながら、頼りがいのある一面も持ち合わせていらっしゃる先生であるようです。

園児たちから教えられることも多く、  
一緒に考え、喜び、成長していく毎日です